

創立 40 周年記念誌より <ウナギの寝床>

元教諭 山本長五郎 様

ピカピカ、ゴロゴロ、雷が鳴っている。ザーザー大雨が降ってきた。雨漏りがする、それ傘をさせ。ばらばらとトタン屋根に雨が打つように降ってきたので、しゃべっていても雨の音に負けて授業ができないから小休止。前にも記されているように、あちこちの小学校の片隅を転々とした後にできた校舎が今の中央区の聖路加病院の近くの道路上に建てられた。四分板、トタン張りの北側に 5~6 教室。道路を隔てたに波側に 5~6 教室の平屋建てのお粗末な校舎。この校舎を名付けて「ウナギの寝床」という。当時は授業の始めと終わりには、カランカランと鐘を鳴らすのだが、道路を隔てた教室には聞こえてこない時がある。お互いに隣の教室が終わったようだから、こちらも終わらせようかという始末。運動場も学校の前 1000 m² くらいの狭い空き地。ここで運動会も催された。100m 競争も運動場を二回りしなければならない。騎馬戦などは 10 組か 15 組でいっぱいになってしまう。しかしこの生徒は元気で運動をし、健康に育っていった。

学校が誕生して日が浅い。職員の数も少なかったせいもあるが、週一回くらいは昼食に全職員が集まって飯を炊き、みそ汁をすすって雑談に花を咲かせ、お互いの融和に努めた。この気風が授業にも反映して、学校は活気に満ちていた。これがのちの京商(芝商)繁栄の基礎となっていることは間違いない。